

# 小中連携に関する公的研修の実態と 中学校教員の連携に対する意識

小泉 仁(東京家政大学)

石田 雅近(清泉女子大学) 加納 幹雄(金沢大学)

古家 貴雄(山梨大学) 伊東 弥香(東海大学)

中村 信子(立教女学院短期大学)

長沼 君主(東京外国語大学)

# 研究背景

---

## 1. 新教育課程の方向性

小学校の「英語活動」 → 中学校の英語教育の「素地」

## 2. 喫緊の課題

小中の連携協力 → 英語教育の新しいパラダイム

## 3. 科研費研究(平成19-21年度)

小学校英語活動と中学校英語の連携についての研究・調査

(小学校・中学校英語教育連携研究会:PETSET)

# 研究目的

---

## 1. 小学校教員と中学校教員対象の意識調査

授業方法、言語観、教育観等に関わる教員の意識を探る

調査項目：小学校教員対象－25項目  
中学校教員対象－16項目

## 2. 教育委員会指導主事対象の実態調査

小中連携をサポートする公的研修の実態を把握する

調査項目：小学校教員対象の研修について－18項目  
中学校教員対象の研修について－7項目

# 調査内容

---

## 1. 中学校教員対象連携意識調査

- 1) 小学校英語活動等についての研修・研究会の参加経験や参加への意識
- 2) 英語活動をしてきた生徒を受け入れるための対策
- 3) 校内研修の開催の有無
- 4) 望ましい小中連携のための協力体制(連絡会や授業見学等)
- 5) 中学校英語教育に期待される波及効果 等々

## 2. 教育委員会指導主事対象連携実態調査

- 1) 小学校教員を対象とした研修等について  
(実施状況、研修頻度・時間、研修区分、対象教員、研修形式、研修講師、研修内容、小中連携のための小中教員合同研修の有無、内容、ALTやJTE対象の研修の有無 等々)
- 2) 中学校教員を対象とした研修等について  
(小学校英語活動に関する研修の実施の有無、研修頻度・時間、研修区分、研修形式、研修講師、研修内容 等々)

# 中学校教員意識本調査

---

## 調査対象

全国公立中学校教員307名(男性119名、女性186名、無解答2名)

## 調査方法

中学校教員意識施行調査結果(古家他、2009)に基づいて調査用紙を改訂

「研修経験の有無」および「対策実施の有無」で群分けした上で分析

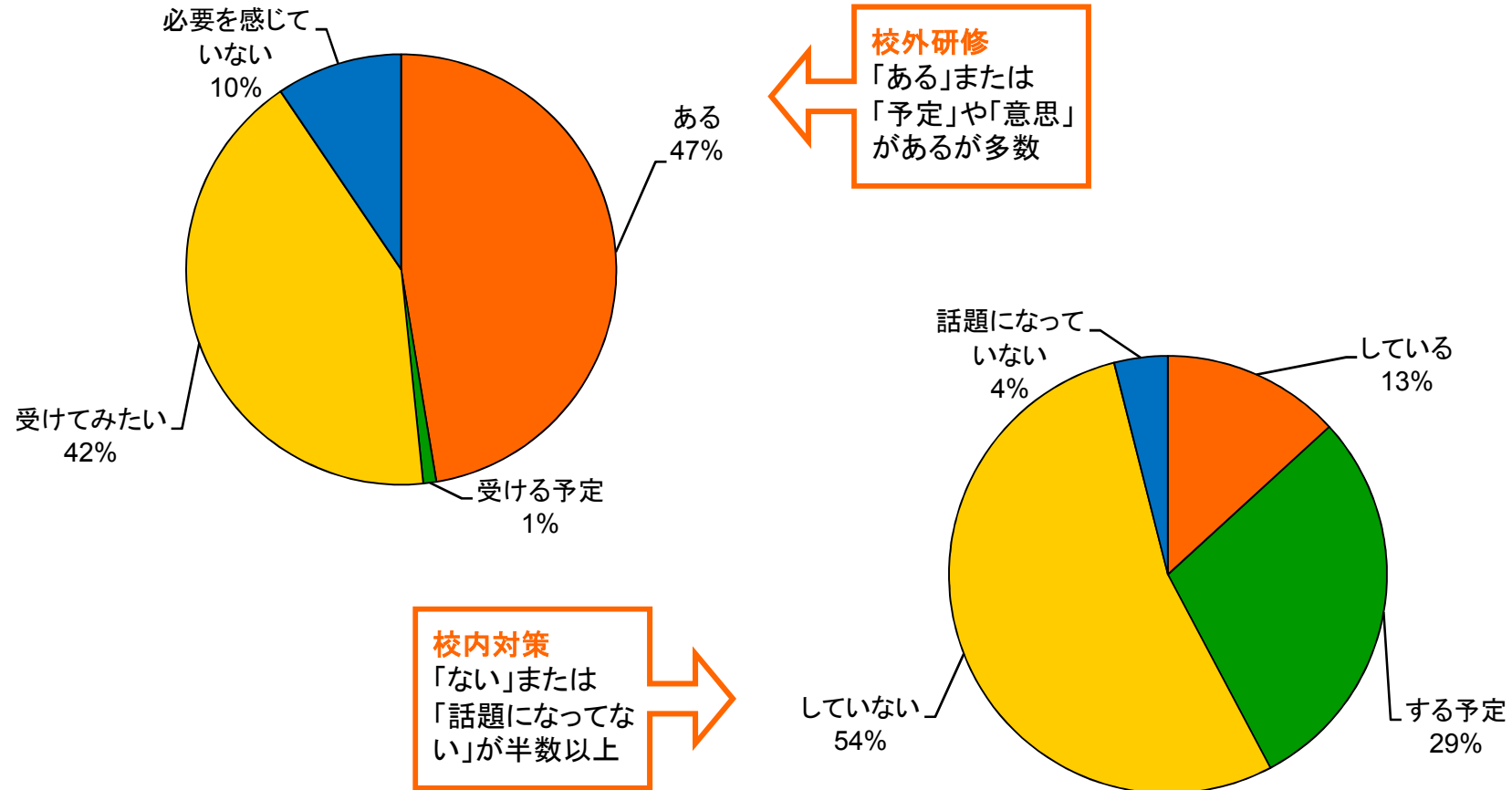
「研修あり×対策あり」:77名、「研修あり×対策なし」:67名  
「研修なし×対策あり」:51名、「研修なし×対策なし」:107名



「連携に関する研修経験」及び「受け入れ対策実施」の有無による意識の相違

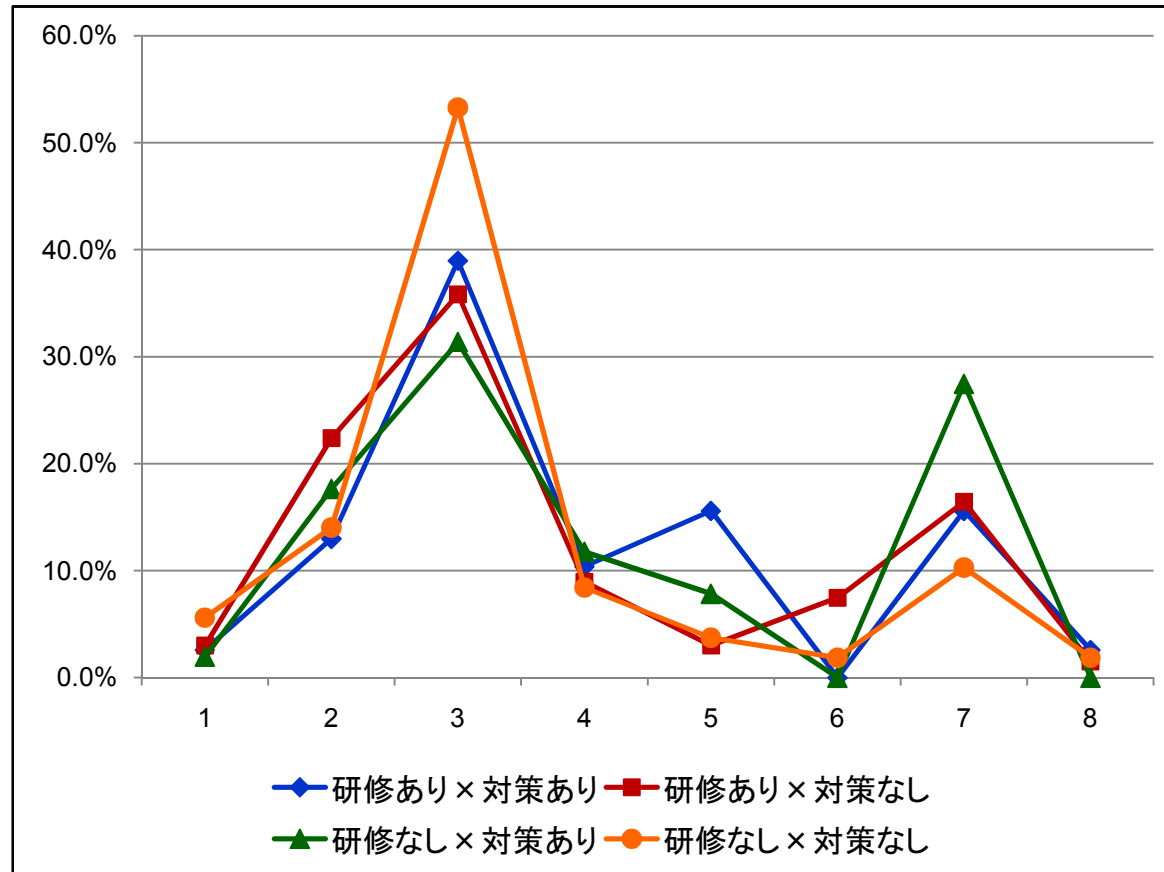
# 「小学校英語活動に関する研修経験と校内対策の実態」

## 2. 小学校英語活動や児童英語についての研修や研究会に出たことがありますか。



## 3. 小学校英語の必修化にあたり、小学校で英語活動をしてきた生徒を受け入れるための対策をしていますか。

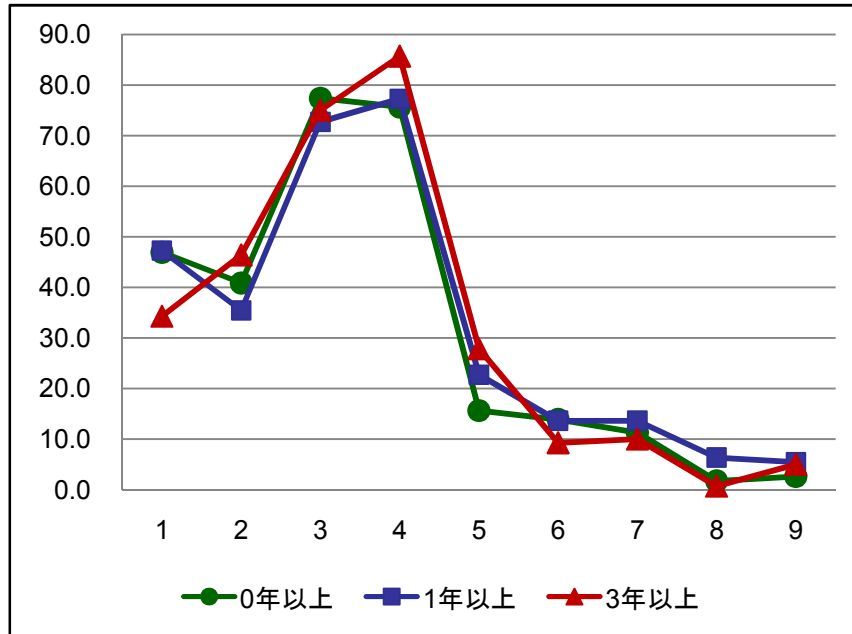
# 「中学校英語との連携における小学校側の体制づくり」



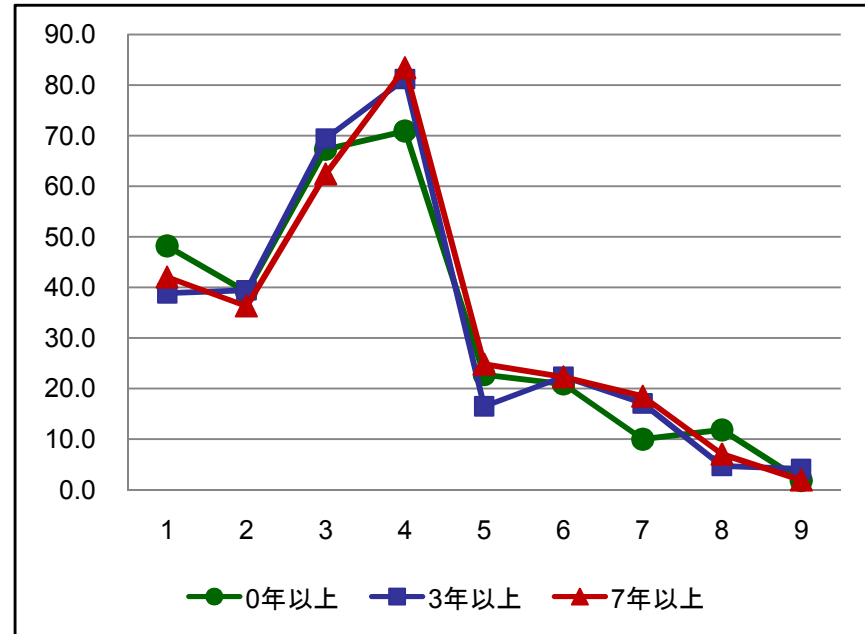
1. 週2時間以上の授業
2. 公的な教員研修
3. 専科教員の配置
4. ALTの配置
5. 統一教科書教材
6. 校内推進体制の整備
7. 小学校と中学校の連絡
8. 相互の授業参観

## 【参考】「小学校英語教育の体制づくり」

研修なし



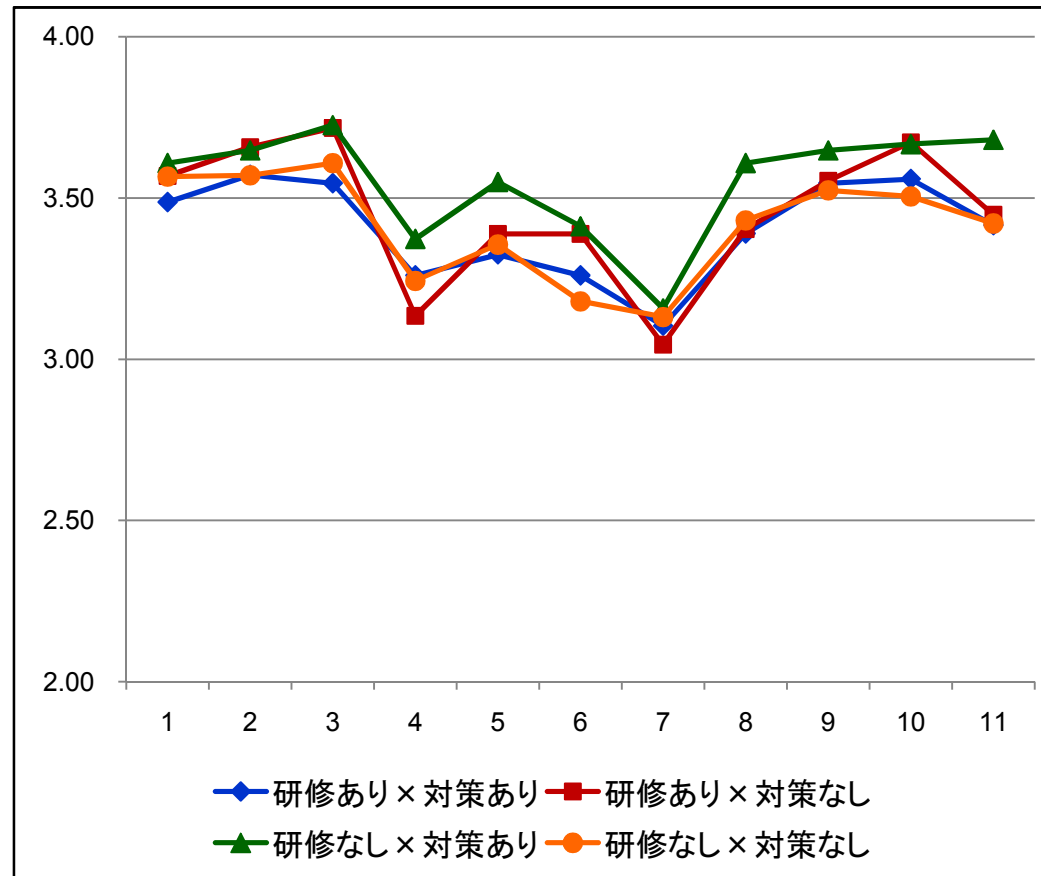
研修あり



- 1 授業時間の確保    2 公的な教員研修    3 専科教員の配置  
 4 ALTの配置    5 統一教科書教材    7 校内推進体制の整備  
 6 小学校と中学校の連絡    8 相互の授業参観



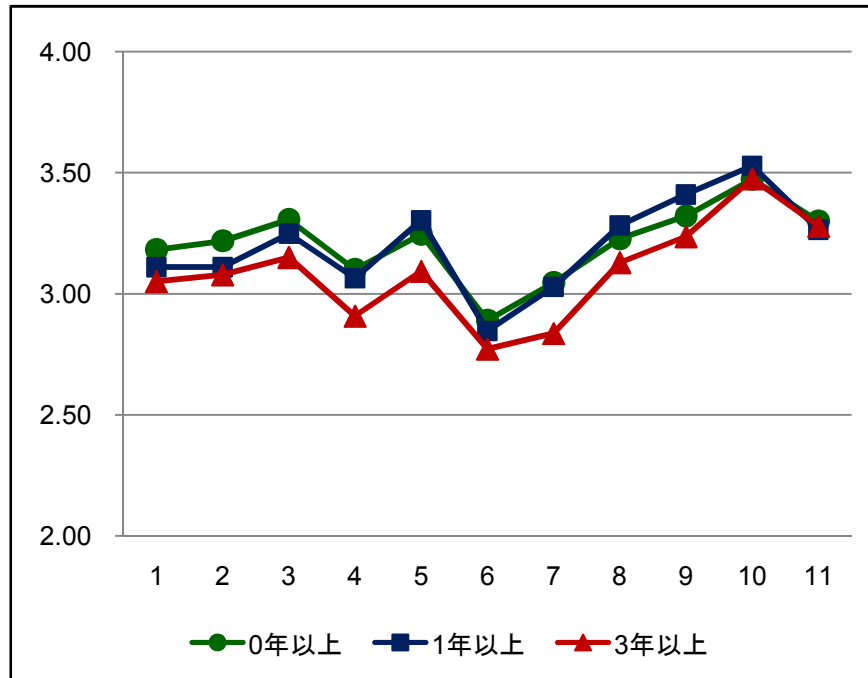
# 「小学校英語活動を進める上での課題」



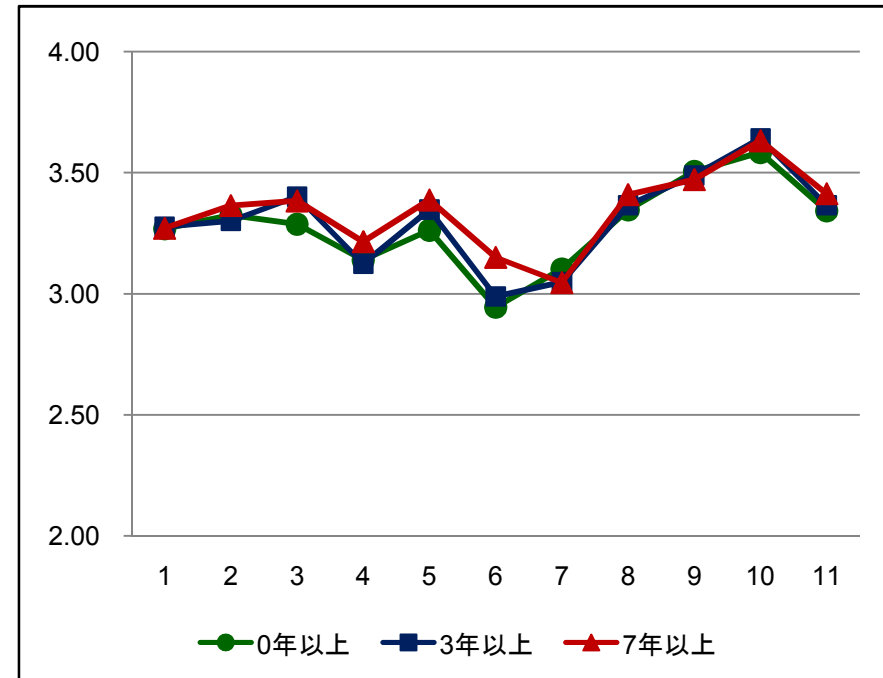
- 1 教材の選定・入手
- 2 カリキュラムの作成
- 3 教育内容の明確化
- 4 指導者の英語運用力
- 5 指導者の指導技術
- 6 地域格差・学校格差の是正
- 7 授業時間数の確保
- 8 授業準備時間の確保
- 9 ALTや英語指導員等との打ち合わせ時間の確保
- 10 ALTや英語指導員等の人材の確保
- 11 小学校英語専科教員の制度化と養成

## 【参考】「小学校英語教育における課題」

研修なし

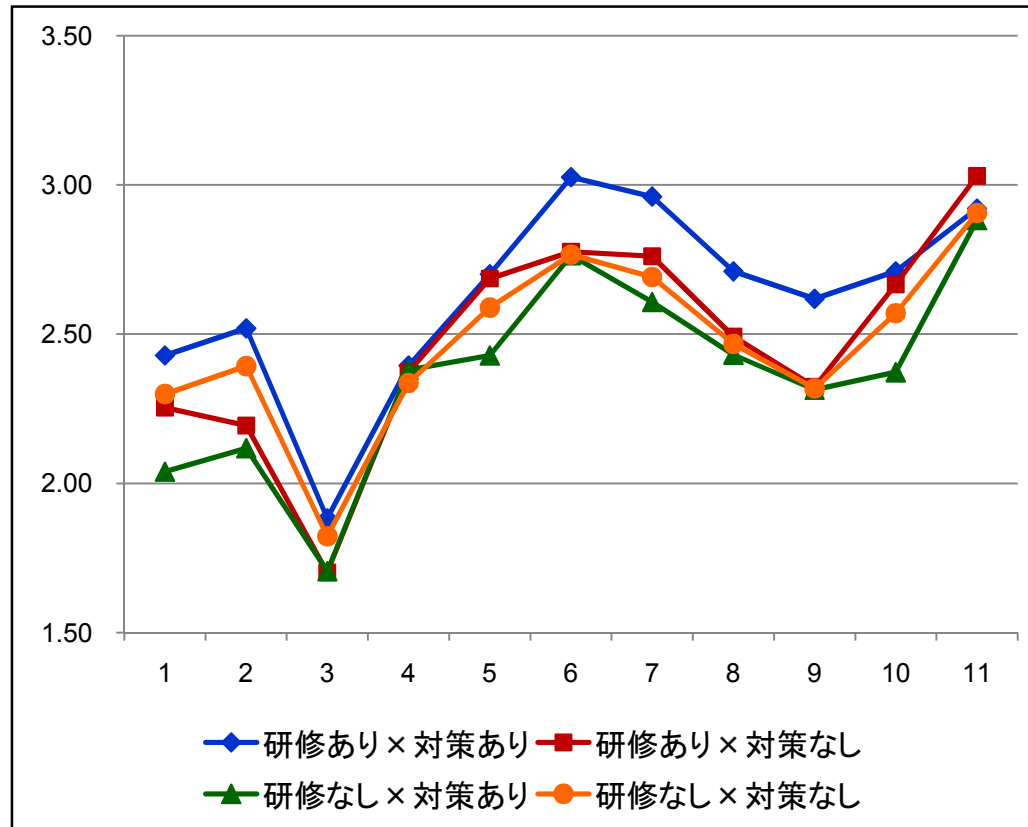


研修あり



- 1 教材の選定・入手
- 2 カリキュラムの作成
- 3 教育内容の明確化
- 4 指導者の英語運用力
- 5 指導者の指導技術
- 6 地域格差・学校格差の是正
- 7 授業時間数の確保
- 8 授業準備時間の確保
- 9 ALTや英語指導員等との打ち合わせ時間の確保
- 10 ALTや英語指導員等の人材の確保
- 11 小学校英語専科教員の制度化と養成

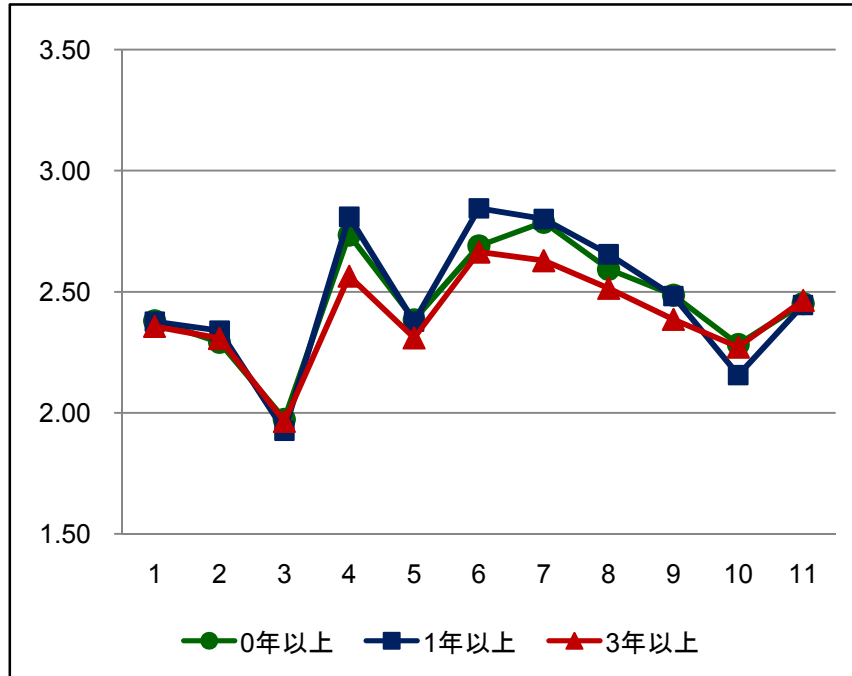
# 「中学校の英語授業への波及効果」



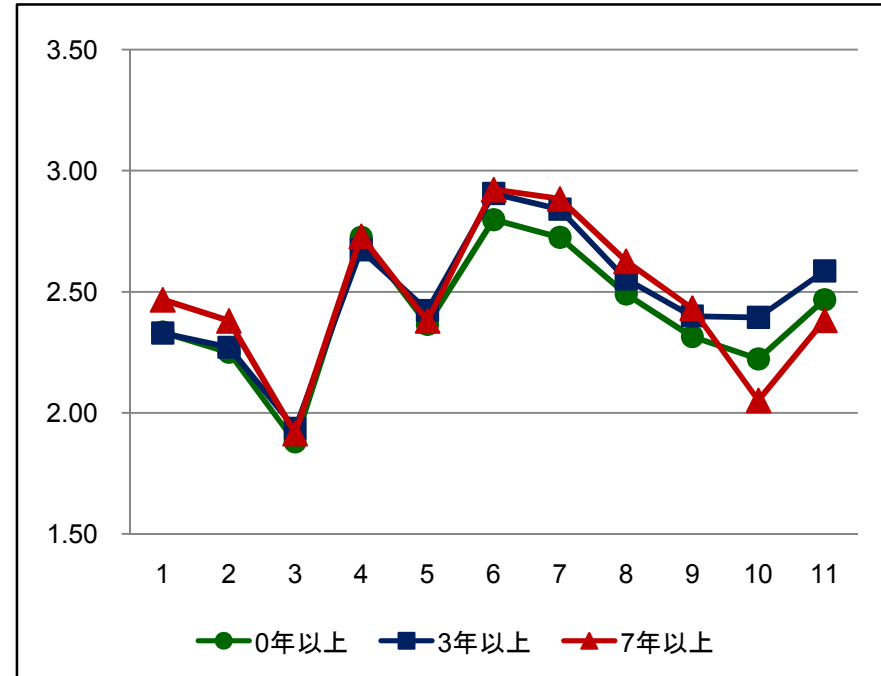
- 1 英語を初歩から始める必要がなく、時間にゆとりが出る
- 2 ゆとりが出た分、これまでより深く教えることができるようになる
- 3 ゆとりが出た分、高校の学習内容にも触れることができるようになる
- 4 関心・意欲が高まり中学校での授業がしやすくなる
- 5 英語で授業が多くできるようになる
- 6 英語に慣れているので先生の英語への反応が速くなる
- 7 英語を聞く力がついて授業がしやすくなる
- 8 英語を話す力がついて授業がしやすくなる
- 9 語彙力がふえて読んだり書いたりする授業がしやすくなる
- 10 既に学んでいる分、新鮮味がなく、関心や意欲が低下する
- 11 既に学習差が生じ、授業がしにくくなる

## 【参考】「中学校への波及効果」

研修なし

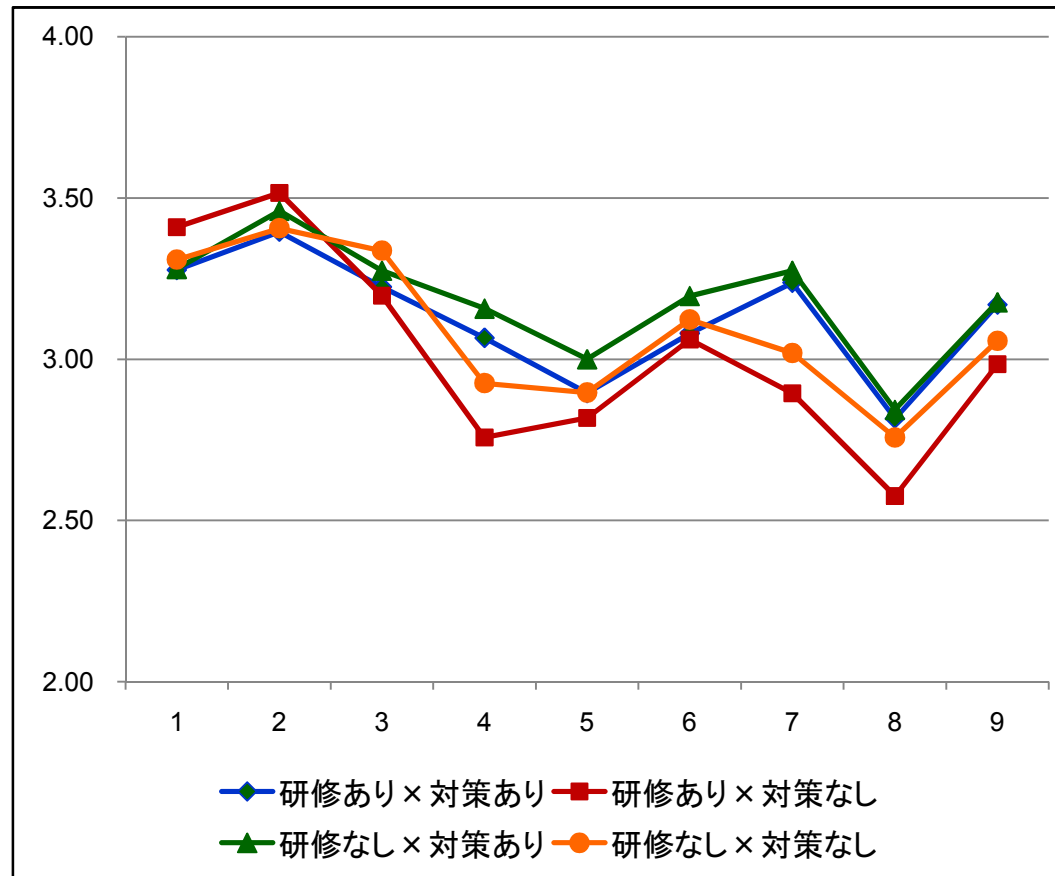


研修あり



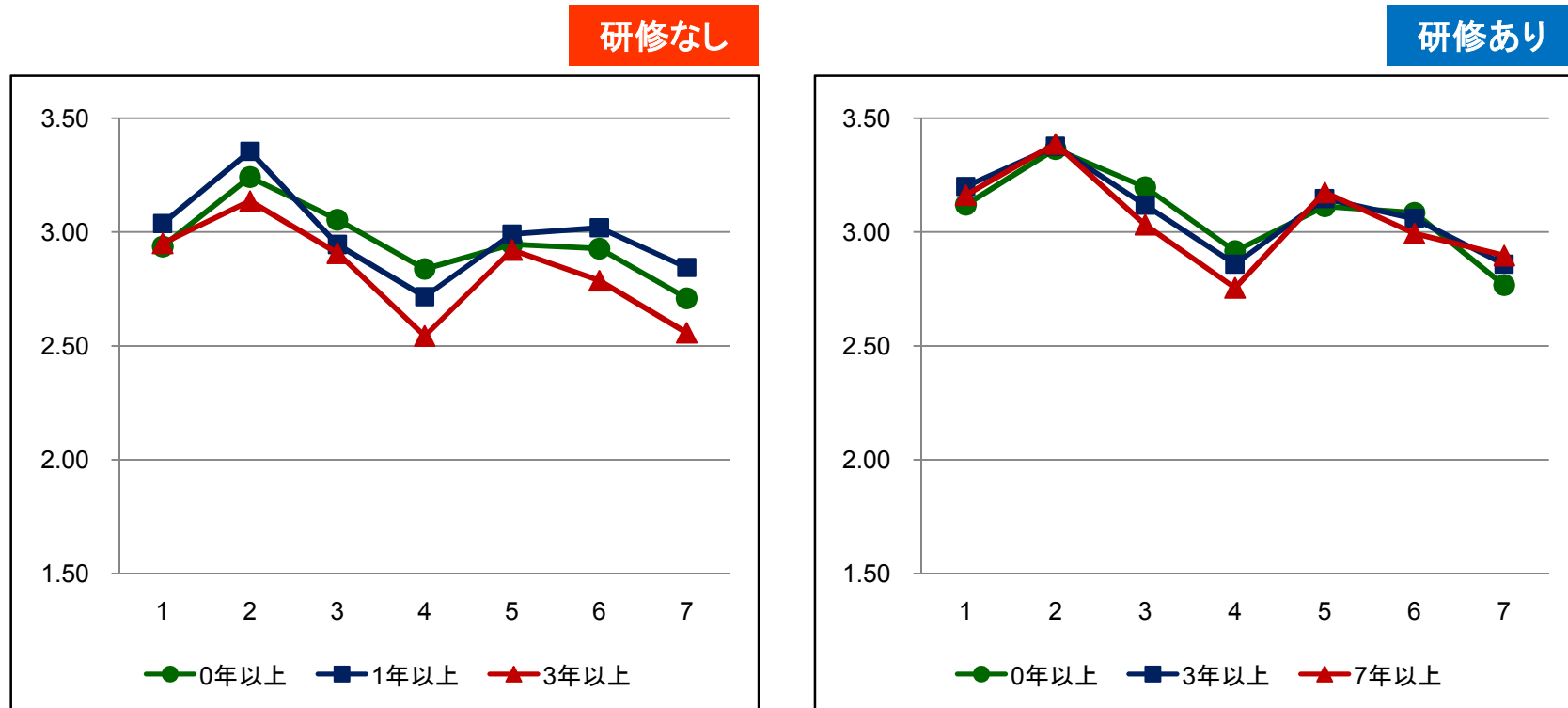
- 1 英語を初歩から始める必要がなく、時間にゆとりが出る
- 2 ゆとりが出た分、これまでより深く教えることができるようになる
- 3 ゆとりが出た分、高校の学習内容にも触れることができるようになる
- 4 関心・意欲が高まり中学校での授業がしやすくなる
- 5 英語で授業が多くできるようになる
- 6 英語に慣れているので先生の英語への反応が速くなる
- 7 英語を聞く力がついて授業がしやすくなる
- 8 英語を話す力がついて授業がしやすくなる
- 9 語彙力がふえて読んだり書いたりする授業がしやすくなる
- 10 既に学んでいる分、新鮮味がなく、関心や意欲が低下する
- 11 既に学習差が生じ、授業がしにくくなる

# 「小中連携をふまえた研修や研究会へ期待すること」



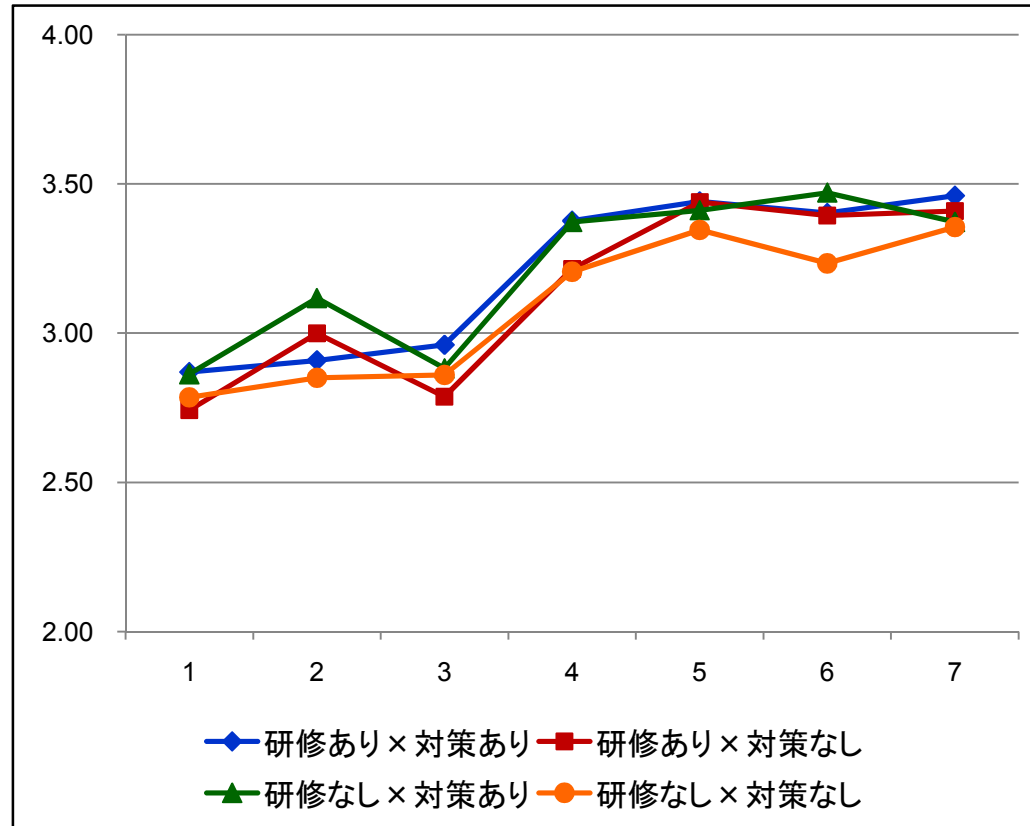
- 1 英語力の向上
- 2 英語で授業を行うための指導技術・方法
- 3 教材の作成・選定
- 4 指導案・指導計画
- 5 ALTなどとのコミュニケーションの仕方
- 6 ティーム・ティーチングの方法
- 7 評価の方法
- 8 小学生の発達や心理
- 9 小学校の指導方法や内容

## 【参考】「小学校英語教員研修の内容」



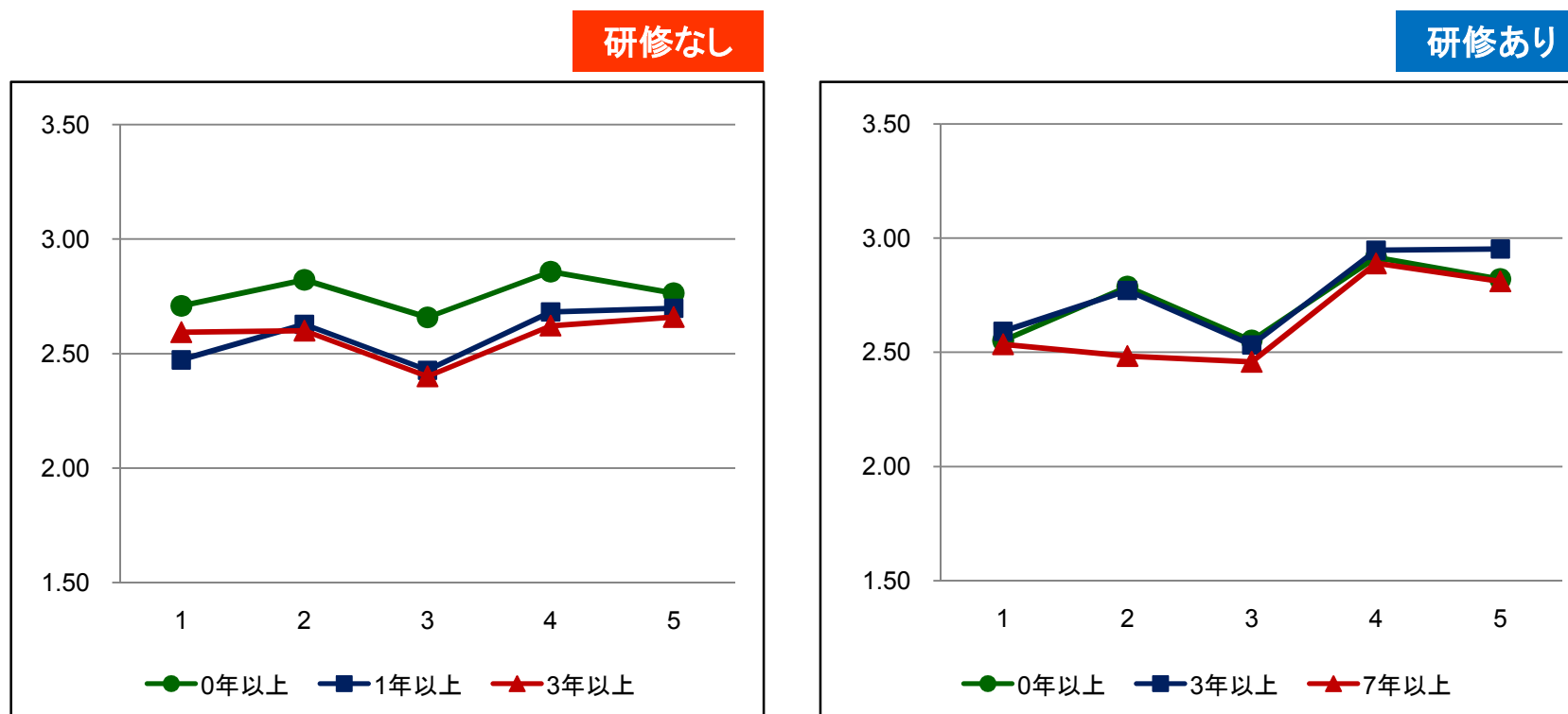
1. 英語力の向上
2. 指導技術・方法
3. 教材の選択・選定
4. 指導案・指導計画
5. ALTなどとのコミュニケーションの仕方
6. ティーム・ティーチングの方法
7. 評価の方法

# 「小中連携のための協力体制」



- 1 中学校教員が小学校教員に、アドバイスを行う
- 2 中学校のALTが小学校を訪問しアドバイスを行う
- 3 小学校から中学校にアドバイスを求めるシステムを作る
- 4 小学校での児童の英語学習状況を中学校に知らせる
- 5 小学校の指導内容と方法を中学校に知らせる
- 6 小学校と中学校との間で連絡会などを行う
- 7 小学校と中学校で相互に授業を見学する

## 【参考】「小中連携のための協力体制」



1. 同じ学区内で、中学校教員が小学校教員に、アドバイスをを行うこと
2. 中学校派遣のALTが、小学校も訪問し、アドバイスをを行うこと
3. 小学校から中学校にアドバイスを求めるシステムを作ること
4. 小学校の学習状況を中学校に申し送ること
5. 小学校と中学校との間で連絡会などを行うこと

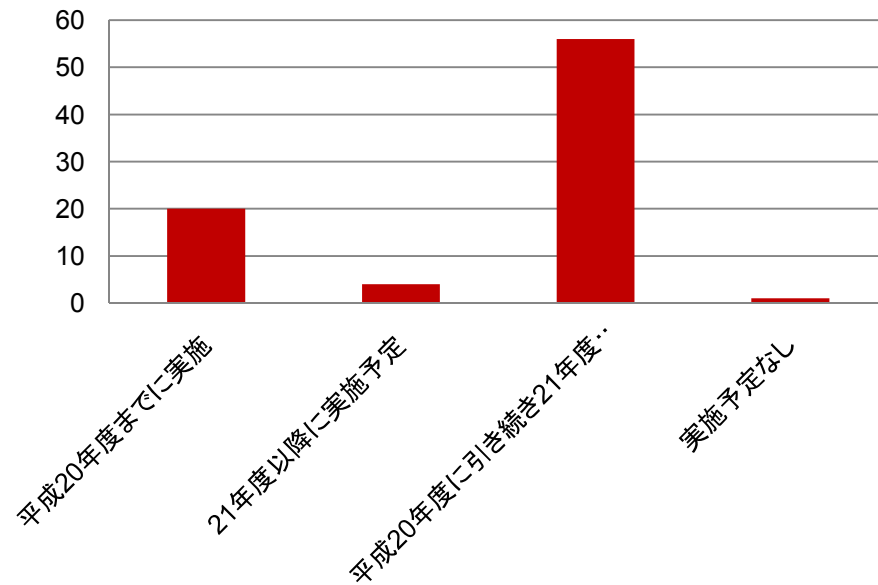


# 教育委員会研修実態調査

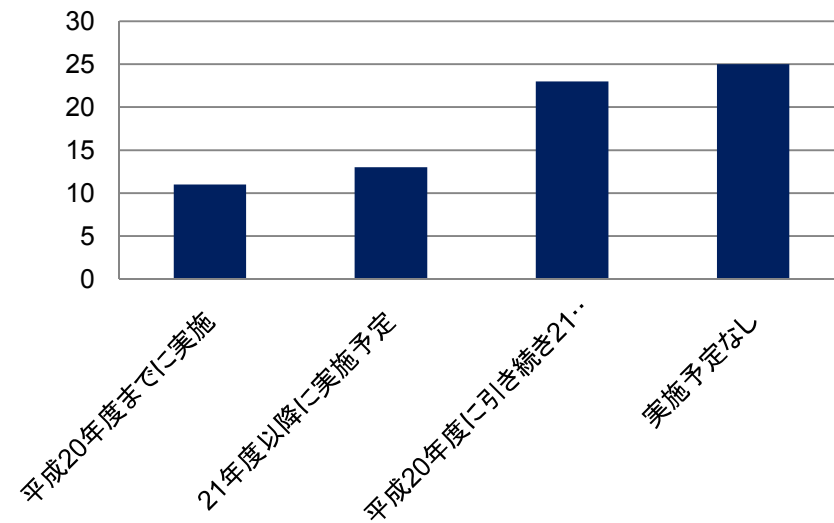
## 調査対象

全国81/183自治体の教育委員会(特区・中核都市等含む)

### 小学校教員対象研修



### 中学校教員対象研修

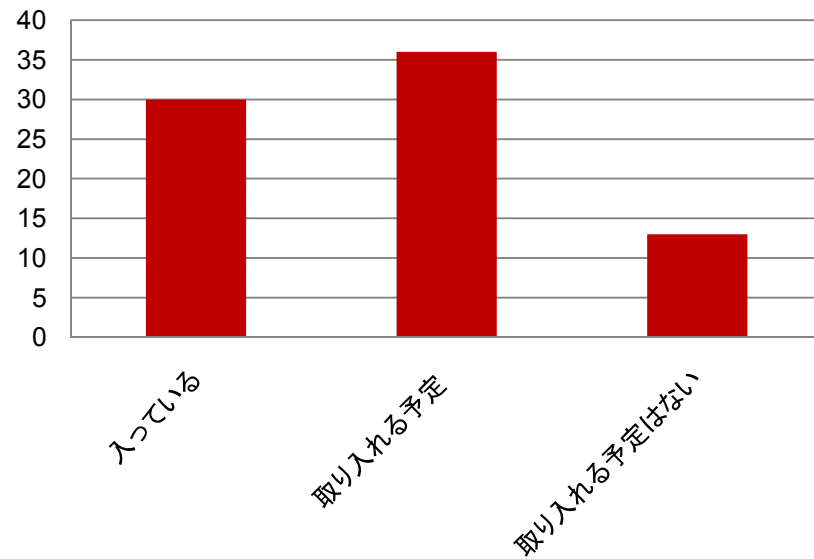


# 教育委員会研修実態調査

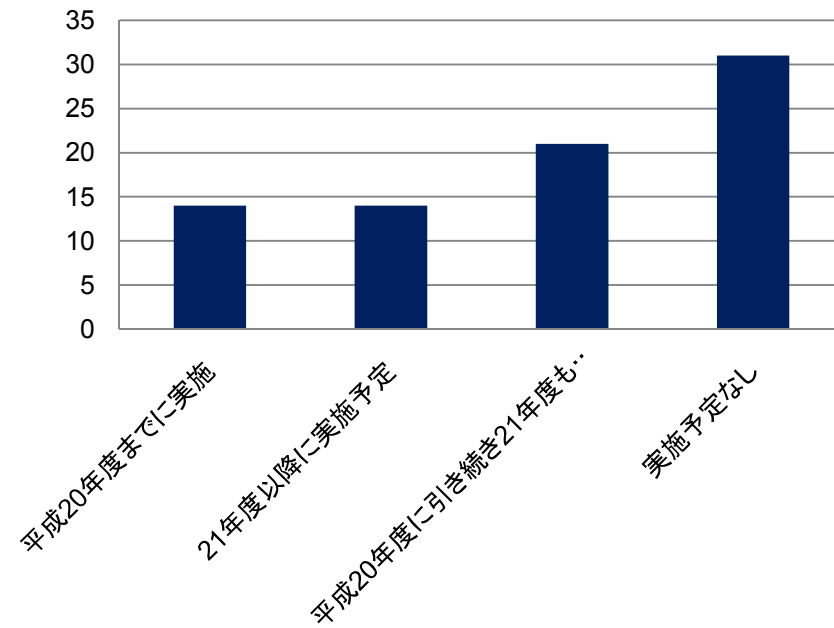
## 調査対象

全国81自治体の教育委員会(特区・中核都市等含む)

### 連携を進める内容【小学校教員研修】



### 合同研修【小学校教員研修】

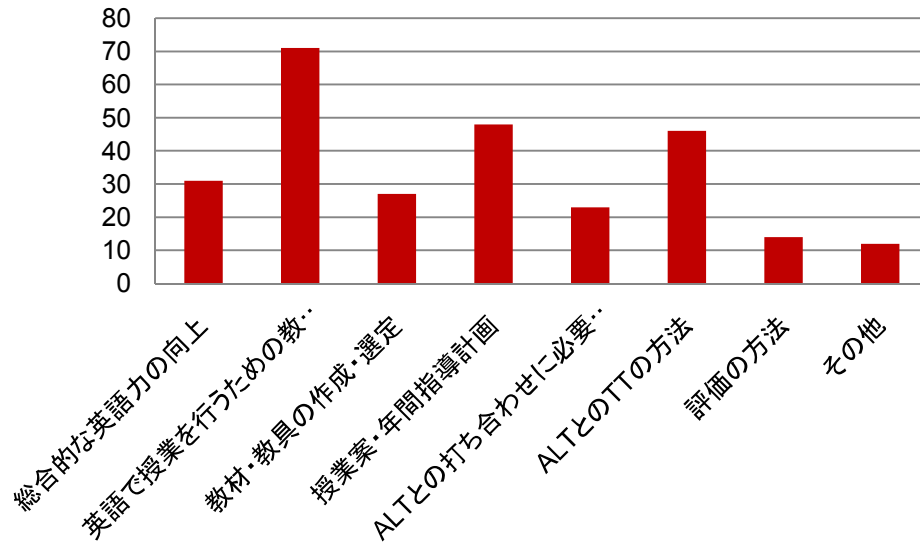


# 教育委員会研修実態調査

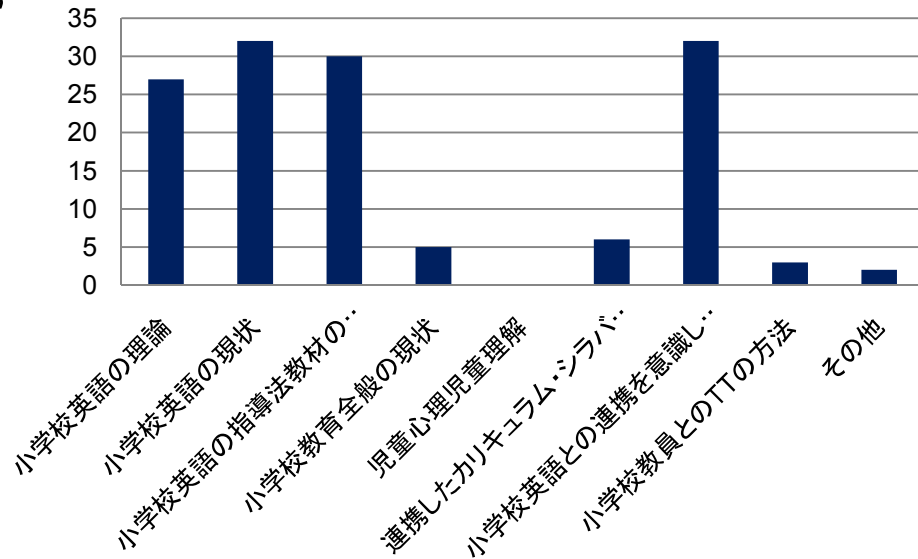
## 調査対象

全国81自治体の教育委員会(特区・中核都市等含む)

### 研修内容【小学校教員研修】



### 研修内容【中学校教員対象】



# 考察

---

1. 自治体の研修の実態からは、さしあたり、小学校教員を対象とした研修をどうするかにエネルギーが割かれている感じで、小中連携という視点からの研修内容になっていない。

2. 中学校教員は、小学校英語活動についての研修の必要性は感じているが、小学生の中学校英語への受け入れの対策までには頭が回っていないのが実情である。

3. 研修あり、研修なしの区分では、今回の調査ではほとんど差異は現れなかった。どのような研修内容かがはっきりわからないから何とも言えないが、たとえ研修を受けてもそれが実際どのように小学校の英語活動の実践と結びつくかわからないと、意識やイメージの変容が起こらないようである。

4. 小中連携に向けた体制作りとしては、小中の英語教育の溝(理解と教育の)を埋めるような対策を講じることを重視しているようだ。具体的には、英語科専任教員の配置と、小中の連絡が重視されている。

5. 小学校英語活動の重要項目はほとんどすべての項目であると考えられている。

# 考察

---

6. 小学校から中学校への英語活動の波及効果については、中学校の教員は、それによって時間的ゆとりができるとは考えていないが、聴解力をつくのではないかと考えているようだ。後者については、研修ありが研修なしよりもそう考えている傾向にある。

7. 小中連携のために中学校教員として受けるべき研修は、英語力と指導力の向上だと思っているようだ。これは自分がゆくゆく小学校で教えたり、デモンストレーションをする機会があるのではと認識しているのではないのか。

8. 小中連携の協力体制については、中学校教員が小学校教員にアドバイスをする存在と考えているのではなく、互いの教育の違いの溝を埋めるべく情報交換の機会を持つことが必要だと考えている。

# まとめ

---

1. 小中連携のための研修は必要だが、まだその連携の方法が具体的にどうなるべきかは明らかになってきていない。実際に5、6年生の英語活動が始まってからでないといけないのではないか。

2. 中学校の教員は、小学校教員にアドバイスをすることには積極的な姿勢を示さない傾向がある。これは、小学校英語活動が自分の行っている中学校の英語教育とは別物だと思っているからではないのか。このためにも、小学校の英語活動の授業を中学校教員が実際に見て、何が協力できるのかを考える必要があると思う。

3. 小中の英語教育は、その血の混ざるところが最も難しいと言われている。つまり、小6と中1の繋ぎ目である。そうであれば特に文字指導は難しいことになる。小中連携の方法だけでなく、小中協同研究(協同テーマの研究)の方法の模索が必要となる。

4. 小学校英語活動においては、あくまでも活動であるべきで、授業ではないのか。もしも授業と言うことであれば授業のパターンが存在するはずである。さらにもし活動なら活動のパターンは存在するのか。それがなければ授業というか活動の手順や流れを小学校の教師が構成するのが難しくなるのではないか。この辺は将来研修の中身に盛り込まれるべきものである。

---

Thank You Very Much



小学校中学校英語教育連携研究会 (PETSET)  
連絡先: [mkoizumi@tokyo-kasei.ac.jp](mailto:mkoizumi@tokyo-kasei.ac.jp)